

# 第453回鉄鋼流通問題懇談会

2021年4月26日(月) 14:30

Microsoft Teams によるリモート開催

## 議 題

1. 配布資料説明(全鉄連)
2. 全鉄連情勢報告
  - (1) 地区の状況
    - 東京、大阪、東北、富山地区概況報告
  - (2) その他地区の概況
    - 鉄流懇4月例会で発表の各地区業況アンケート結果
  - (3) 総括：阪上全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2021年7月 日( ) 14:30～ 於：

※詳細未定、決まり次第ご連絡いたします

| 発表項目                 | 銅管  | 薄板  | 厚板  | 棒鋼・形鋼   |
|----------------------|---|---|---|---|
| <p>1. 需給動向 (景況感)</p> | <p><b>伊藤忠丸紅鉄鋼</b></p> <p>国内需要については、建設機械向け等一部で回復の兆しが見えているものの、昨年度の出荷量と比較すると大部分の業界で低調が続いている。</p> <p>建築設備用材の需要は、首都圏の大型案件より中々案件の低調が懸念されている。</p> <p>プラント設備向けは、足立千重、鹿島方面で細かなメンテナンス需要はあるが上期から下期半までは低調が続いている。</p> <p>このように状況の異なる、銅管需要の増減は例年と比較しおおよそ1-2割程度落ちている状況。在庫に関しては昨年度からのメーカーの引受変動から在庫低減の状況になっている。</p> <p>高炉メーカーは中鋼の鉄鋼需要、自動車メーカーの需要回復に伴い、受渡不足が発生。鋼管製造能力自体はあるものの、鋼管の素材としてのコイル不足している。特約店の再販在庫は古く、荷役ではメーカー側で在庫を4月から開始しているが、荷動きが低調から苦戦を強いられている。</p> <p>・自動車：<br/>21年1月の自動車生産台数48.9万台（前年同月比▲10.4%）<br/>21年2月の自動車販売台数40.2万台（前年同月比▲0.7%）<br/>21年1月の完成車輸出台数30.5万台（前年同月比▲8.9%）</p> <p>・建設機械：<br/>21年2月の建設機械総出荷額20.3兆円（前年同月比+1.5%、内訳として国内▲6.2%、輸出+6.9%）</p> <p>・建築：<br/>21年1月 住宅5.8万戸（前年同月比▲3.1%）<br/>21年1月 非住宅336万m<sup>2</sup>（前年同月比+13.2%）</p> <p>・土木：<br/>21年1月 公共土木工事受注額67.3兆円（前年同月比▲0.4%）<br/>21年1月 民間土木工事受注額28.1兆円（前年同月比+13.9%）</p> <p>・造船：<br/>21年1月 起工量56万GT（前年同月比▲35.3%）<br/>21年2月 輸送機受注額97万GT（前年同月比+46.1%）<br/>21年2月末 手持工事1,501万GT（前年同月比-2.0%）</p> <p>2021年2月度鋼管輸出<br/>総日無銅管：14,075トン（前月比+38.3%）<br/>溶接銅管：17,487トン（前月比▲7.7%）<br/>2021年2月度鋼管輸入量<br/>総日無銅管：1,131トン（前月比+23.0%）<br/>溶接銅管：9,951トン（前月比+13.8%）</p> <p>&gt;WTは、2021年3月初時点の865/バレルからやや下がり、\$60/バレル前後で推移している。米国のリカウエントは、4月13日時点で432基（前月比+29基）と多少戻ってきているものの、かかる状況下、中央アジア産鋼管の需給需要は堅調に推移しており、ヨーロッパやアジア、インド、パキスタンを含めたアジア地域等からも継続して引合が出ているとはいえず、全般的に見て需給需要の行き違いは解消されている。ライオンが2022年に25年に必要とされるライオンパイプ型高炉の多くが、事業向けのパイプライン、その入札状況が開示されている。その多くが、ライオンパイプ価格も徐々に上がってきている。概ね、貸借関係が顕著に高騰により今後どうなるのか業界で注目が集まる。</p> | <p><b>岡谷鋼機</b></p> <p>2021年2月末薄板3品出荷量は、353.5万トンで、前月比▲1.1万トンであった。350万トンの既定水準は5カ月連続である。</p> <p>在庫率は2.35と低下しており過去2年間では最低水準の水準である。在庫内訳としてはメーカー在庫が前月比▲1.3万トンの168.3万トン、問屋在庫が前月比+1.5万トンの67.8万トン、コイルセンター在庫が前月比▲1.3万トンの117.4万トンであった。品種別在庫量は鉄鋼種別が前月比+5万トンの165.5万トン、冷延鋼種別が前月比+1万トンの81.3万トン、表面処理種別が前月比▲1.7万トンの106.7万トンであった。</p> <p>国内向け需要は自動車、家電などの製造業を中心に回復が進んでいる。</p> <p>2021年3月度の国内普通自動車販売台数は前年同月比102.2%増の32.9万台であった。内陸自動車は13.9万台で前年同月比91.3%であった。</p> <p>2月度の民生用電気機器国内出荷金額は、前年同月比1,916億円であった。電機冷蔵庫、洗濯機、ルームエアコンなど車体前年同月比で増、空気清浄機については、前年同月比203.8%と好調であった。</p> <p>2月度の新設住宅着工数は前年同月比3.7%減の6万761戸であった。床面積は2.9%減の504万5千平方メートル、戸数は20カ月前比で減少した。2カ月前比のマイナスイナスとなった。持ち家は4.3%増の2万390戸と4カ月前比でマイナスイナスとなった。分譲住宅は14.6%減の1万798戸であった。</p> <p>2月の薄板3品輸入通関実績は、26万トンであった。熱延鋼種別が、前月比10.2%増の12.4万トン、冷延鋼種別が、前月比10%減の6.7万トンであった。一方2月の薄板3品輸出実績は、熱延鋼種別が前月比▲11.6%の82.3万トン、冷延鋼種別が前月比6.6%増の18.1万トン、薄板種別が前月比13.3%増の22.4万トンであった。</p> <p>世界鉄鋼協会がまとめた2021年度の世界鉄鋼需要が今年5.8%増加するとの見通しを発表した。（昨年10月時点の増加予想は4.1%）</p> <p>新型コロナウイルスからの景況回復、自動車部門の持ち直し、建設部門が堅固さを維持し、DfV（日曜人口）に絡む需要も押し上げ要因としている。なお、今期の需要見通しについては、新型コロナウイルス感染症第2波、第3波が第2四半期に落ち着くという想定に基づいている。</p> | <p><b>JFE商事</b></p> <p>2021年2月末の全鋼材出荷量は350.5千トンで前月比1千トンの減。受入は前月比2千トン増、出荷も同4千トン増。出荷在庫により在庫は減少したが、本格的な需要回復が見られず、在庫率は25.1%（同9ポイント増）と適正。200%以上の高水準で推移している。建設分野については国内向けの見込みが弱く、海外向けは海外向けで回復の兆しが見え始める。コロナ前の活動水準まで戻ってきている。産機製造業向けについては海外向けに回復し始めているが、コロナ前の水準まで戻ってきていない。物流倉庫や物流施設、輸送機などでは堅調に推移しているが、中小型案件の増減は芳しくなく、全体的に盛り上がりが見えていない。また、必要回復材料不足し、暫くは切株の仕入確保およびメーカー側目での値上げが価格転嫁には苦戦が見通し。</p> <p>国内建設向けの輸送機出荷量は21年3月1,510千GT（前年同月比128%増、前月比55%増）、前年の反動で増加した面もあるが、大型のクレーンやクレーン架組がまとまったことが全体を押し上げた。2020年度は約8,950千GT（前年同月比7%増）のコロナ禍による新造機の停滞により、20年4-7月は大きく低減したが8月以降改善。しかし、年度ベースでは過去20年で5番目の水準と苦戦が続く。20年度末、輸出船下持1千トン15,130千GT（前年同月比19%減、前月比0.5%増）、減少の低水準で推移している。建設機械の2月の国内出荷量は、前年同月比6.2%増、外需は1,269億円（同6.9%増）、総計では2,031億円（同1.5%増）。総合計では4ヶ月連続で増加。オセアニア、欧州、中近東と外需が9地域7地域で増加。1年内に再発症後の用子出荷が背景で減となった。産業界の2月受注金額の内需は1,967億円（前年同月比7.2%減）、外需は7,906億円（同713.7%増）、合計で9,873億円（同219.4%増）。外需は化学機械はじま、プラスチック加工機械、印刷機、送風機など7機種の受注率により注目は2ヶ月連続の増となった。</p> <p>21年の鉄鋼輸入通関実績は50千トン（前月比4千トン増）、韓国が48千トン（前5千トン増）、台湾が2千トン（同1千トン減）。</p> <p>2月の鉄鋼輸出実績は165千トン（前月比15千トン増）。台湾およびタイ向けが牽引。韓国および中国向けは減となった。</p> <p>韓国メーカー3社の21年3月の販売量は691千トン（前月比6.6%減、前年同月比6.4%減）、国内販売量は前月比比増となったが、輸出販売量は減少。2021年1-3月の販売量は2,153千トン（前年同月比6.8%減）、国内販売量は1,576千トン（同6.1%減）、輸出量は577千トン（同8.7%減）となった。韓国国内メーカーの設備増修および輸出販売調整などにより厚板の生産量は減少。国内向けは、優先して輸出向け販売調整を継続。中国も内需増減が続く。中国の大半は輸出向けオフアフェアをストップしている。</p> | <p><b>兼松トレーディング</b></p> <p>棒鋼 鉄スクラップ価格が高値で推移している中、市況も、強弱で推移しているが、足下の需要は少なく、荷動きは当面見通しで細かく低位横ばいにある。当面反落局面は考えづらく、上値は重いながらも強弱を繰り返すと思われ。</p> <p>形鋼 足下の需要は、新規案件少なく、継続案件も小口中心の割りで、土木物件の小口短納期物件が散見され。市況は、強弱あるものの、各メーカーの値上げ幅までは、市場に浸透しておらず、各流通は、需要の少ない中での値上げで苦戦している。</p> <p>2021年2月の建築着工統計<br/>全建築物件の着工床面積は、前年同月比4.8%減の860万m<sup>2</sup>。前月の増加から再び減少。</p> <p>公共の建築は、前年同月比14.3%増の32万m<sup>2</sup>、2カ月前比の増加、民間の建築は、前年同月比5.4%減の827万m<sup>2</sup>、前月の増加から再び減少。</p> <p>構造別では、S造が前月比3.1%減（前年同月比2.8%増）の308万3千m<sup>2</sup>、RC造が0.9%増（前年同月比27.9%減）の146万2千m<sup>2</sup>、SRC造は、106.4%増（前年同月比4.9%減）の19万8千m<sup>2</sup>。</p> <p>鉄骨需要量は、S造が前月比1.1万トン減の30万8300トン、SRC造は、5100トン増の9900トン。全体では前月比4900トン減の31万8200トン。</p> <p>輸出 異形棒鋼の2月の輸出量は2万4996トンで前月比109%増加、前年同月比で50%増加した。平均価格は、トン5万7081円で前月比4978円高上がった。</p> <p>日形棒鋼の2月の輸出は、前月比189%増の1万7514トン。輸入 日形鋼 韓国からの輸入日形鋼が伸び残を強めつつある。多少増減はあるがコンスタントに入荷している。前月の2月は2970トンで5万9050円。</p> <p>2021年において、中韓両国の建設分野では、膨大な鉄鋼需要が見込まれる。各省、各市が公表した計画での重点投資計画では、中央政府が推進を進める「新型インフラ」。「新型都市化」「重要インフラ」を中心に、相対的に「投資が予定されている。大規模な投資が続く鉄道建設は、29の省、市で開業や着工が計画されている。正蓋な需要を背景に、建設用鋼材の市況は上伸している。</p> |

鉄鋼流通問題懇談会（2021年4月）

| 発表者<br>発表項目  | メーカ<br>JFEスチール  |
|--------------|---|
| 1. 需給動向（景況感） | <p>（国内）・3月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業で+5と前回12月調査から+15ポイントとなり、4期連続で改善、19年9月以来のプラスとなった。建産機分野が堅調である一方造船分野の改善は見られない。</p> <p>先行きについては+4と1ポイントの悪化となった。コロナ感染状況に対する不透明さが影響していると推定される。</p> <p>21年度設備投資計画は大企業では前年度比+3%改善するも、中小企業は同▲5.5%と、先行きに対して慎重な姿勢が見られる。</p> <p>・家計部門については2月の小売業販売額は前年同月比▲1.5%と下げ幅は縮小しているものの3ヶ月連続の減少となった。基調判断も前月までの「弱含み傾向」から「横ばい傾向」に引き上げた。</p> <p>・製造部門では2月の自動車生産が前年同月比▲9.1%と2ヶ月連続の減少、機械受注は外需が好調であり+26.4%と大幅増となった。</p> <p>・建築部門では1月の建築物着工床面積が17ヶ月ぶりの前年同月比増に転じたものの、民需の減少により、2月は再び同減となった。</p> <p>（海外）・コロナ感染終息の目途は立っていないが、いくつかの主要国における追加の経済対策とワクチン接種の進展により、経済活動は加速する見通しである。景気回復の力強さには、各国間で大きなばらつきが出ると予想され、ワクチンへのアクセスや経済対策の有無が決め手となる。今後、先進国と発展途上国との格差拡大や乖離へのケアが重要になる。</p> <p>米国：バイデン政権による大型経済対策とワクチン接種の促進により、経済は力強い回復が想定される。</p> <p>中国：コロナから脱却し、民間消費と設備投資が主役となる、より正常な姿での経済成長へ移行する。</p> <p>ASEAN：域内各国も回復する見通しであるが、国際的な旅行の正常化には時間を要し、観光を基盤とする国では回復見通しが厳しい。</p> <p>&lt;国内鉄鋼需給&gt;</p> <p>（生産）・21年2月の粗鋼生産は747万t（前年同月比▲5.6%）で12ヶ月連続の減少となった。</p> <p>（出荷）・2月の普通鋼国内向け出荷は318万トン（前年同月比▲5%）で17ヶ月連続の減少。輸出向け出荷も185万トン（同▲3%）と10ヶ月連続の減少であったが、前月では+17万トンとなった。</p> <p>（在庫）・2月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は520万トン（前月比▲2万トン）、4ヶ月ぶりの減少。</p> <p>・2月末の薄板3品在庫は354万トン（同▲1万トン）と2ヶ月連続の減少。</p> <p>・2月末の厚板シャシー在庫は35万トン（同▲0万トン）とほぼ横ばいのなか減少に転じる。</p> |
| 2. 需要産業動向    | <p>〔建築〕・2月の新設住宅着工戸数は6.7万戸（前年同月比▲3.7%）で20ヶ月連続の減少。持家は増加も分譲・貸家が減少。</p> <p>・非住宅着工床面積は335万㎡（同▲7.2%）で減少に転じる。公益分野で増も、商業・サービス等で減。</p> <p>〔自動車〕・3月の国内販売（輸入車除く）は56.8万台（前年同月比+4.5%）。20年度通期は▲8%も、下期では+8%と回復。</p> <p>・2月の完成車輸出は33.8万台（同▲14.2%）で4ヶ月連続のマイナス。アジア向けは堅調も、北米・欧州向けで減少。</p> <p>・2月の四輪生産（速報）は66.7万台（同▲9.1%）で2ヶ月連続のマイナス。</p> <p>〔造船〕・3月の新造船受注量は151万GTの受注、3月末の手持工単量は1,513万GTと低位。</p>  |
| 3. 輸出入動向     | <p>〔輸出〕・2月の全鉄鋼輸出は270万トン（前年同月比▲9.0%）で10ヶ月連続の減少。</p> <p>〔輸入〕・2月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は43万トン（前年同月比+14.7%）で増加に転じる。</p> <p>韓国は2か月連続、台湾は3か月連続の増加、中国は増加に転じた。</p>  |
| 4. 海外市場動向    | <p>・2月の世界粗鋼生産は1億5,017万トン（前年同月比+4.1%）と4ヶ月ぶりの減少。中国除きでは同▲3.2%の減であった。</p> <p>・3月の中国粗鋼生産は9,402万トン（同+19.1%）。環境規制による減産措置の情報があつたものの、堅調な需要に支えられ過去2番目の高水準となった。</p> <p>・3月の中国鋼材輸出は754万トン（同+16%）旧正月前の中国内の市況が軟調であった際の契約と推定される。</p>   |